



ミャンマー・ジャポン



永杉 豊氏

## ミャンマーは、今日本の企業が押し寄せる。

去る4月24日、日本ミャンマー友好協会主催、駐日ミャンマー大使館後援による日・ミャンマー外交関係樹立60周年記念事業として「リアルミャンマーセミナー」が開催された。セミナーでは現地の情報専門家として私が講師を務めたが、定員100名にも関わらず、開催10日前にはすでに申込者数が超過していたのである。

### ミャンマーの日本語情報誌「MYANMAR JAPON」発行とヤンゴン和僑会

#### ■アジア最後のフロンティア

今、世界中から注目されているミャンマーのビジネス、経済。しかし、注目されているがゆえに過度な投資ブームも起きている。やはり、リスクを回避するためには正しい情報の把握が必須である。

セミナー当日は、熱気がこもる日本ASEANセンターセミナールームで、私が発行しているミャンマーの日本語情報誌「MYANMAR JAPON(ミャンマー・ジャポン)」をテキストに、記事にできない裏情報までも含め「リアル」な最新情報を語った。

#### ■2013年6月、ミャンマー初の月刊日本語情報誌を発行する

ミャンマーは注目されている反面、電気・水道・交通等の社会インフラ、電

話・Wi-Fiなど通信インフラ……まだまだ問題が多いのも事実。また、近年の民主化を果たすまでに秘密主義を貫いてきたこともあり、情報そのものも不足している。

1年ほど前まではインターネットで「ミャンマー」を検索しても、ミャンマーに関する情報サイトは少なく、一見あやしい投資情報サイトや進出支援をうたったものが散見されるくらいだった。後日知ったことだが、これらのサイトに騙されている人はかなりの数にのぼるらしい。

そこで、今の本当のミャンマーを誤解なく広く日本人に知ってもらうためにミャンマーの日本語ビジネス・生活情報誌「MYANMAR JAPON」を創刊したのである。ビジネス、経済から現地生活情報まで、編集部スタッフが毎日ミャンマーの街を歩き回り、かつ現

地メディアをくまなく精査し、編集している。

配布先にも気を使った。ヤンゴンでは日本大使館やJETRO、JICA事務所をはじめ、市内のホテルからレストランそしてヤンゴン国際空港まで配置されている。また、同時に日本でも印刷・製本、駐日ミャンマー大使館、日本ASEANセンター、地銀協会18行国際部他日緬両国あわせ200カ所以上で手に入る。

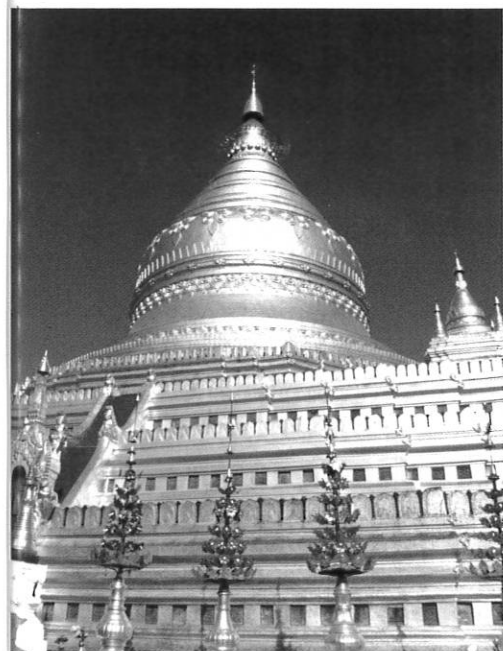
#### ■激変するミャンマー

私が初めてミャンマーを訪れてからわずか1年半、これほどの短期間で急激に変化する国はほかに見たことがない。街を走るクルマ、人々の服装、いたるところで響く槌音。ビルマの竖琴ならぬミャンマーの槌音だ。

今まで鎖国状態だった国に、世界中からヒト・モノ・金が一気に押し寄せて来ている。JICAのヤンゴン所長は「ミャンマーの明治維新」と形容している。

#### ■2012年秋、プロジェクト中止

私は上海の中山公園近くに住んで



香港を中心に世界各国にある日本人企業家(和僑)組織で、世界12地域に拠点を設立。海外進出する起業家たちのネットワークである和僑会。今シリーズでは、世界各地の和僑会会員による海外最新情報を紹介する。

和僑会だより



いた。実は、この年の11月に日本のファッション誌を発刊すべくマーケットリサーチをかね東華大学に語学留学していたのだ。

しかし「尖閣問題」は日中間の経済を一気に冷やした。ビジネスは友好関係や国民間の信頼が礎である。この問題は尾を引くと考えた私は、日本の出版会社の社長とも相談し、新規プロジェクトを直ちに中止したのである。

#### ■上海和僑会からヤンゴン和僑会設立まで

2011年に、とあるきっかけで上海和僑会に入会することになる。和僑会の「相互扶助」に魅力を感じたからである。

私は1990年代、米国のロサンゼルスで貿易会社を経営していた。起業当初は周囲に心を許せる友人がいるわけではなく、何事も一人で解決しなければならなかったのである。ひどく悩んだ時期もあった。

上海和僑会のメンバーは皆とてもフレンドリーで和気あいあいとしていた。当時私に悩みはなかったが、この組織は海外で起業する者たちに必ず知恵と勇気を与えることができる、と直感したのだ。

ヤンゴンには夢と希望に溢れ意気揚々としている若者たちがいる。しかし、海外において日本人はマイノリティーであり、マイノリティーゆえの孤独感、

言葉の壁、文化の違いに日々直面しているはずだ。

2013年5月にミャンマー現法を設立直後、7月にヤンゴン和僑会を立ち上げた。当初は数名しか集まらなかったメンバーも今では20名を超える。フロンティアミャンマーならではの起業家精神や独立心を持った若者が多い。

私は米国を含め海外在住が長い、日本人の本質的な心は「和」にあり「貢献」にあると常々思っている。我々が世界に向けて飛躍するためにも、少なくとも和僑会メンバー同志は「相互扶助」の精神を持ち、この「和」と「貢献」の気持ち忘れずにいたいと思う。

#### ■「MYANMAR JAPON」のサービスとは

正直に言うと情報誌(フリーペーパー)のビジネスは広告主体ではない。収集した情報をもとにビジネスのドメインを構築する企業、と言っても過言ではないかも知れない。具体的には、「人材紹介」「不動産仲介」、そして外部へ配信していない情報の提供やマーケットリサーチ、現地企業との提携までを支援する「コンサルティング」である。

今もっとも多くの現地情報を持つと言われるミャンマーの日本語情報誌「MYANMAR JAPON」ならではのサービス、ぜひ和僑会のメンバーには転ばぬ先の杖として活用していただきたい。